



学校だより 第6号
令和7年 10月
富山市立豊田小学校

リアルとバーチャル

校長 吉野 哲

とある自治体で2025年10月から「スマートフォン使用時間の目安を定める条例」が施行されました。みなさんの中にもニュースで聞いたことがある方が多いのではないのでしょうか。この条例は、仕事での使用を除く余暇時間におけるスマホ等の使用を1日2時間以内とし、子供の場合、小学生以下は午後9時まで、中学生以上は午後10時までとしています。違反しても罰則はなく「あくまで目安」となっています。みなさんはこのニュースを聞いたときどのように捉えたのでしょうか。「個人の生活に対しての過度な干渉だ」「守れるわけがない」といった意見がある一方で、「家庭でのルールづくりがしやすくなる」「スマホ使用に関して考える機会となる」といった意見もあったそうです。私自身は「とうとう自治体が動く世の中になったか・・・」でした。スマホはとても便利なツールで現代人にとってなくてはならないものになっています。電話・チャット・動画閲覧・ゲーム等、すべてを手のひら上で完結できます。便利だからこそ、その扱いについて使用者側の規範や節度の意識が求められるのではないかと思います。他県の条例施行ではありますが、今一度自分たちのスマホ使用に関して見直すきっかけになればと思います。

話は変わりますが、6年生は9月30日から10月2日に二泊三日の宿泊学習を行いました。1日目は黒部ダムまで行きました。目的地の黒部ダムまでは電気バスやロープウェイ、ケーブルカーを乗り継ぎました。黒部ダムに到着した子供たちは、その雄大な景観と人の力でつくられた壮大な建造物（ダム）や観光放水の迫力にとっても驚いていました。子供たちは事前学習として黒部ダムのことについて調べていたのですが、やはり実際に自分の目で見ると（経験する）ことは、子供の学びにとっても意義のあることだなと感じました。事前学習で身に付けた知識を強固なものにし、驚きや感動とともに思考力や想像力をより豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

話は戻りますが、YouTubeやTikTok等では数々の動画があり、現地に行かずともその様子や雰囲気をバーチャルで知ることができます。これは、様々な理由によって現地に足を運ぶことができない場合もある人にとってとても利便性の高い機能です。一方、自分の足で現地まで行き、実物をリアルに見ることで得るものもあり、それは大事な経験になるということではないかと考えます。

学校では一人1台端末が当然のように使われる時代になっています。バーチャルとリアルそれぞれのよさや利便性を吟味し、より効果的な教育活動の展開に努めていきたいと思っています。